

タラソテラピーを中核とした地域振興施策について：ドイツ北海の離島ランゲオーク島の事例

谷本, 都栄 / Tanimoto, Toe / Fukuoka, Takazumi / 福岡, 孝純

(出版者 / Publisher)

法政大学体育・スポーツ研究センター

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 / 法政大学体育・スポーツ研究センター紀要

(巻 / Volume)

23

(開始ページ / Start Page)

9

(終了ページ / End Page)

13

(発行年 / Year)

2005-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00005024>

タラソテラピーを中核とした地域振興施策について

—ドイツ北海の離島ランゲオーク島の事例—

谷本 都栄 (東京農業大学)

Toe TANIMOTO

福岡 孝純 (法政大学)

Takazumi FUKUOKA

はじめに

近年、海水の自然療法的効果が注目されるようになり、我が国でも良好な海浜環境を生かして沿岸域や離島地域で健康増進・回復のために海水を利用した温浴施設の計画が行われるようになってきた。既に、1980年代後半頃に欧米のタラソテラピー（海洋療法）が紹介され、1992年からは国土交通省が中心となり、ドイツなどの健康保養施策の一環である海洋療法等の理念を取り入れつつ、我が国独自の離島振興施策として「アイランドテラピー＝離島での自然環境を利用した健康づくり活動」が提唱されている。

しかしながら、我が国の現状では、タラソテラピーという主として若い女性向きの美容法として理解され、人工的な空間での美容的処置が行われているものが多く、本来のタラソテラピーの理念に基づいて行われていないものが殆どである。従って、タラソテラピーの概念やその効果・効能などが正しく理解されていない。欧州（ドイツ、フランス等）にみられるようなタラソテラピーを中核とした健康保養地の形成には程遠い状態である。

今回事例として取上げたドイツのランゲオーク島は、「離島」という地政的条件にもかかわらず、海洋療法地としての歴史が長く、健康保養の島としてハード・ソフト・ヒューマンの各領域における様々な取組みにより地域振興に成功している。本研究では、ランゲオーク島のタラソテラピーを中心とする観光関連の施策について調査し、その実態と成功要因について考察する。

1. ランゲオーク島の概要

(1) 歴史的経緯

海水のもつ治癒力については、ヨーロッパではギリシャ時代から知られていたが、海洋療法を行える施設を中心に保養地が形成されるのは、18世紀初頭にイギリスにおいて国内の海浜地帯に海洋療法地の建設ブームが起こったことに始まる。保養地として各種インフラが整備され、ホテルや娯楽施設なども建設された。ドイツでは、1800年頃から主に貴族や金持ちを相手にした海洋療法地が北海やバルト海につくられるようになり、今日ではこれらは50箇所にもぼる。

北海は、海水の水質が良いだけでなく、空気も清浄である

ため、北海に浮かぶ島々には、国により本格的な海洋療法地として指定されている地域が各所にある。本事例で取上げるランゲオーク島（図1、2参照）は、ドイツの北海に浮かぶオストフリースラ諸島のうちのひとつで、海洋療法地としての古い歴史を有している。

ランゲオーク島は遠浅の砂洲で、もともとは荒地の広がる離島であったが、1723年より殖民が進み、1830年には初めて海水浴客が訪れ、その後島と本土を結ぶ連絡船が就航するようになった。一時は災害などで殆どの住民が離島してしまった時期もあったが、戦後1949年には保養地としての規準の条件を最高値でクリアし、現在では国内の保養・療養地として国民的人気のある島である。観光ではなく、健康保養或いは病氣治療やリハビリテーション等の療養を目的として訪れる人が多く、医師の処方箋があれば保険も適用され、水中運動、食事療法、精神療法、各種セラピー等のプログラムを受けることができる。

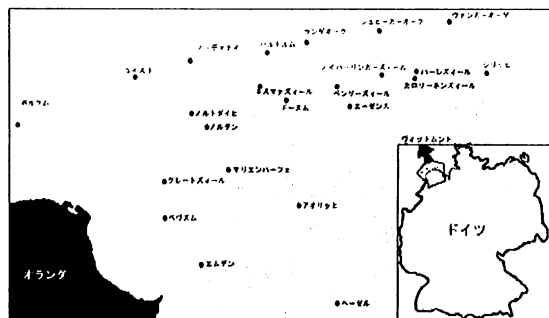


図1 ランゲオーク島位置図

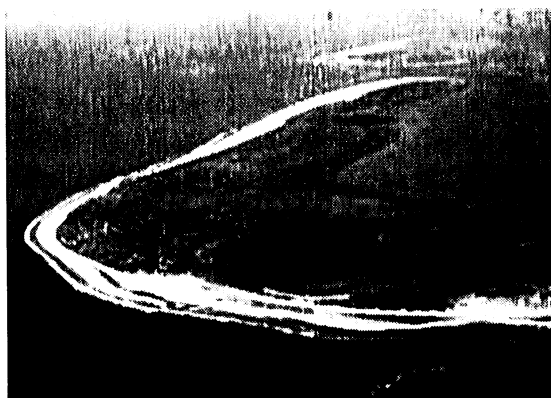


図2 島の全景

表1 ランゲオーク島でできるレクリエーション活動

種 目	備 考
海水浴	海岸では、遊泳や日光浴だけでなく、ビーチバレー、凧揚げ、キャンプなどができる。
ハイキング	海岸沿いは海岸線に沿ってヴァンダー・ヴェークと呼ばれるハイキングコースが設けられている。
乗馬/馬車	乗馬入門コースから、浜辺での乗馬、乗馬体験ホリディ等のプログラムがある。また、馬車で周る観光コースもある。
フィッシング	北海地域はドイツ最大のフィッシング・エリアである。通常釣魚証が必要で、旅行者の場合はゲストカードがあれば決められた場所で釣りができる。
ヴァット・ヴァンデルン(干潟歩き)	ニーダーザクセン干潟を歩くことをヴァット・ヴァンデルンと言い、必ず専門の案内人が付き添い30名上限のグループで行われる。子ども向けの数キロのコースから上級者向けの約10キロのコースまである。
各種マリンスポーツ	ウィンドサーフィン、ボート、カヌー、ヨットなどそれぞれ専用の海岸で初心者コースから休暇集中スクールなどのプログラムが用意されている。
その他	ダイビング、テニス、パラグライダー、ミニゴルフ、スケートボード、インラインスケーター、射撃など多様なメニューがある。

(2) 島の海洋療法産業を支える基盤

現在、島の総面積は約19km²、総人口は2150人(多少の季節的変動あり)と小さな島であり、オストフリースラ諸島に共通して見られる砂丘や湿地、14kmに渡るやわらかい白砂のビーチなどの地理的特徴を有している。北海は、西から吹く風、寒冷前線と温暖前線が頻りに変わる海洋性気候で、海岸を歩くだけでもエアロゾル化した塩分やヨードなどのミネラルを豊富に含む潮風が粘膜を刺激し、呼吸器官を強化するなどの効果がある。気候変化により心身が刺激されやがて適応・安定化していく作用により、人間本来の自然治癒力が強化されるのである。

島を訪れる人々の多くは、長期滞在(10日～2週間程度)者で、タラソセラピー(冷気浴、冷海水浴、日光浴、各種マッサージ等)関連のメニューだけでなく各種レクリエーション活動を楽しむことができる(表1参照)。

また、北海の干潟地域とオストフリースラ諸島は、ニーダーザクセン干潟国立公園に指定されており、ランゲオーク島の湿地地帯も渡り鳥の中継地として有名である。また、この地方独特の植生を有した自然のままの環境が保持されている。島の総面積の約70%にあたる地域が自然保護地域に指定されており、ニーダーザクセン州の環境保護・形成のモデル地区となっている。国立公園内は、休息地域(一切の開発行為が禁止されており、特定の園路のみ通行可の原生エリア)、中間地域(自然体験の為に部分的に開放されているエリア)、保養地域(通年保養活動等の利用に供せられているエリア)に別れており、動植物及び景観の保全のための段階的な制限を設けている(図3参照)。

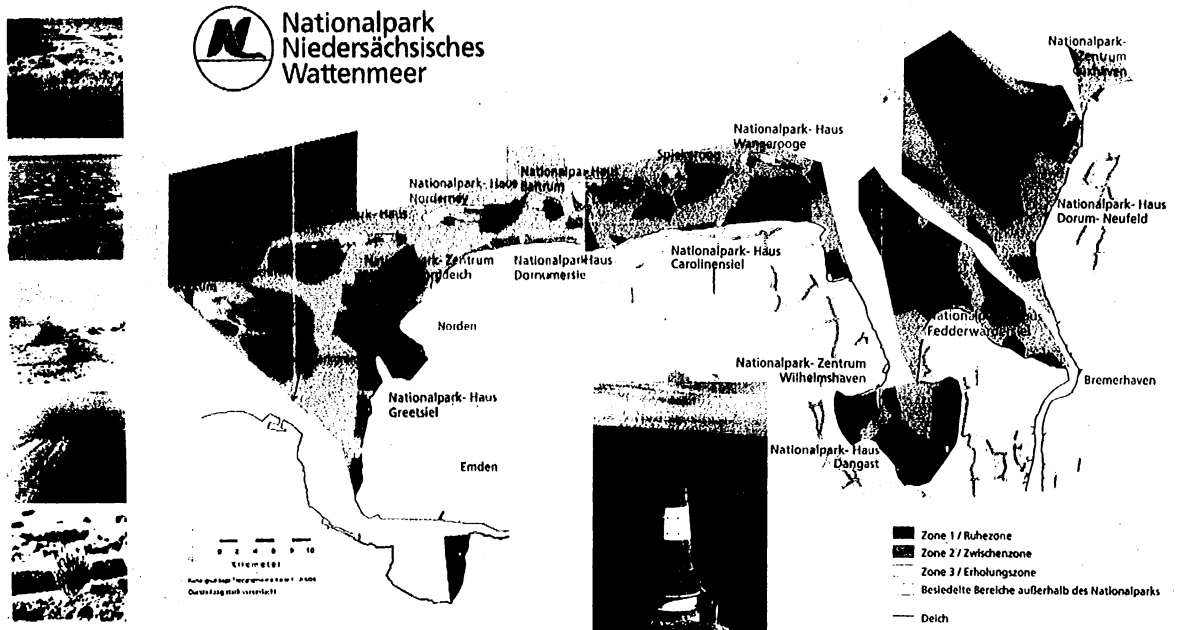


図3 ランゲオーク島の土地利用

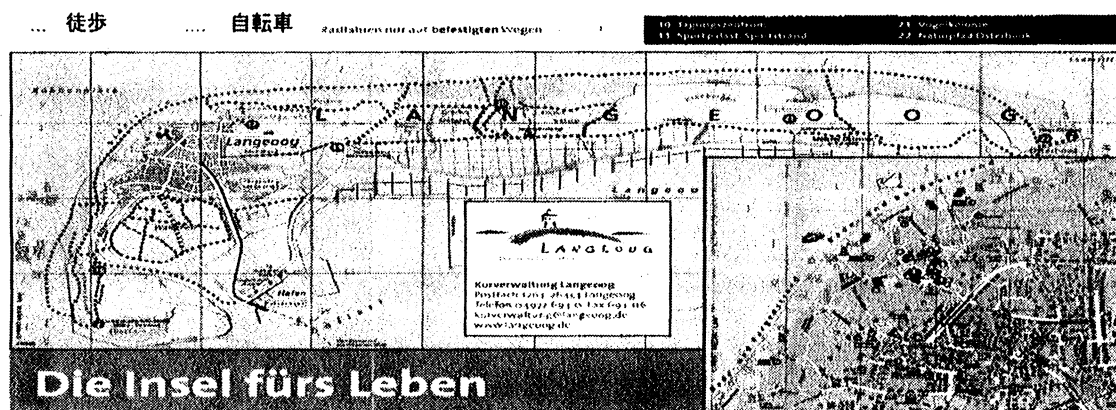


図4 ランゲオーク島の各種トレイル

僅かな地域に限られている人々の居住区においても、建物を建てる際には詳細な計画により何度も検討が重ねられ、伝統的建造物の保全、建築協定による建築様式の義務付け、街並みの景観保全など地域らしさを十分に考慮した建築・空間計画を実施している。また、タラソテラピーのためには新鮮な海水が常時必要であるため、特に海岸に近接した地域では、海の環境に悪影響を及ぼすような工作物は置かないなど細心の注意が払われている。

さらに、島の最大の特徴ともいえるのは、島の高い環境水準を保つために自動車交通を厳しく規制していることである。島内全域で普通乗用車の使用が禁止されており、ビジターは対岸の大陸側に整備されている駐車場に自動車を止め、フェリーで島内に入る。島内の交通手段は、徒歩、馬車、自転車（約1万台）、観光向けの小規模の鉄道、物資輸送のための電気自動車（約50台）である。ビジターは徒歩や馬車・自転車のための専用の道路や自然探索路（図4参照）により島全体の環境を楽しむことができ、また電気自動車の速度は10km/hに制限されるなどの配慮がなされている。

その他にも、天水を利用した島独自の水道システム、海底ケーブルによる送電及び風力エネルギーの導入、都市ガスの整備（住民の90%が利用）、本土でのゴミ処理（島内に処理施設を置かない）、下水道の完備（最大2万人の容量）、通信ネットワーク網の整備など環境への配慮だけでなく、都市圏の水準と変わらない生活基盤が整っている。

以上のように島の資源を最大限に生かした環境整備を行い、また高い環境水準を保つための制度を整えることにより、保養や癒しを求めて年間約18万人もの旅行者が国内外からランゲオーク島を訪れてくる。宿泊客の延人数は約150万人であり、ビジターは平均して8.5泊の滞在をしていることになる。日帰り客だけでも年間約10万人にのぼり、現在も僅かながら年間入込み客数は増加している。

これらのビジターを受け入れるため、様々な滞在のスタイルに対応した宿泊施設が整備されている（宿泊容量は約1万1千人）。その内70%が民営のペンション及びアパートメント（二食付き又は朝食のみ）である。ホテルは16軒で、この他にバンガロー、ユースホステルなどもある。予約には国内

外からインターネットでアクセスができ、観光局で一括して紹介しているため大変分かりやすいシステムになっている。

各宿泊施設では、個人・家族・団体利用の別の細かい料金設定や、オリジナル・ツアー等を提供するなど色々な工夫がなされている。学校休暇中や夏のシーズン中は、1週間以上又は週単位で借りることを希望している宿泊施設が多い。また、レストランや居酒屋が約50軒あり（人口比でニーダーザクセン州第1位）、飲食関連施設も充実している。

2. ランゲオーク島の観光施策

(1) 観光局とその役割

ランゲオーク島は、住民の殆どが観光にかかわる分野で生計を立てており、特にタラソテラピーに関わる事務職や専門の療法士及びトレーナーなど、ウェルネス関係の職業に従事している住民が多い。しかも、住民1人当たりの納税額はニーダーザクセン州で1位であり、所得水準が非常に高い。また、夏のハイシーズンをピークに、年間を通してドイツ本土からの短期労働者が職を求めて島に来ている。

島の観光関連の方針は、村長の直属にある観光局により定められ、観光局の各々が主要な観光施設の管理運営及び観光客向けのサービスやマーケティングなどを担っている（図5参照）。観光局は、以前は行政組織の一部であったが、現在では独立採算制を取っており、観光局長が観光関連分野の施策の決定権を有している。業務内容は、海水浴場、タラソプール、クーア・ウェルネスセンターの管理運営、マーケティング及び広報活動、イベントの企画運営、地域の清掃、緑地の管理まで様々である。

観光局の財政については、年間総予算は約7億円で、主な収入はクーア税（約3.5億円）、テナント料収入（約1.0億円）、クーア・ウェルネスセンター関連収入（約1.0億円）、タラソプール関連収入（約0.7億円）である。クーア税は、保険が適用される療養目的以外で島を訪れる人に対して課せられる税で、滞在日数分支払う義務があり、貴重な収入源である。

クーア・ウェルネスセンターは、療養のための各種療法を行う施設であり（表2参照）、改修後州のスパ施設のコンク

ルで第1位を受賞した。近年、クア活動への保険適用が減らされ受益者負担が増加する傾向にあるなかで、利用者が減少しないようさらなる質的向上を目指している。また、クア関連施設には、一般の人が気軽にクアが出来る施設、子供や母親を対象とした専門の施設、各種療法の専門医や療法士による施術が受けられる施設、宿泊をしながら施術できるウェルネス・ホテルなどがある。

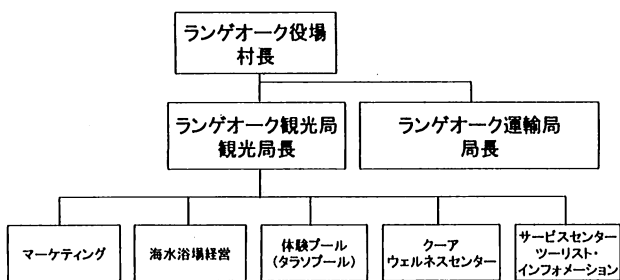


図5 ランゲオーク島観光局組織図

表2 クア・ウェルネスセンターの主なセラピー

セラピーの種類		
クラシックマッサージ、足指圧マッサージ、マニュアル・ドレナージュ、結合組織マッサージ、酸素入り海水バス、気泡バス、海泥パック、クナイプ式療法、海水バス、海水フォト療法、アクアトニックプール、ウォーターマッサージ、治療体操、呼吸療法、エレクトロ・セラピー、フェイシャルケア、アイス療法、筋肉トレーニングセラピー、自発トレーニング、筋肉除緊法、海水ミスト吸入、深層水飲用クア など		
割引セット料金 (ユーロ)		
快適セット	酸素バス+コスメティック・フェイシャルケア	45.00
	気泡バス+全身マッサージ	40.00
	全身マッサージ+コスメティック・フェイシャルケア	50.00
タラソセット	メディカル・フットケア+足指マッサージ	40.00
	海泥パック+全身マッサージ	45.00
	海水オイルバス+全身マッサージ	40.00
	海水オイルバス又は海藻バス又は海水ミルクバスのいずれか+全身マッサージ+コスメティック・フェイシャルケア	65.00

タラソプールは1967年に建造され、2000年に改装費用14億円をかけて大改修された。現在ではインドアのレクリエーション施設で最も人気がある。ウェルネスプール、体験浴プール、子供用プール、ジャグジー、サウナ等の各種施設があり、年間利用者は約80万人である。美容・健康を主眼とした対応や利用シーズンの延長を目指した改修が効を奏し、売上げは上向き傾向である。

(2) 施策の成功要因

ランゲオーク島において、観光が主要産業として成功している理由として第一に挙げられるのは、第二次世界大戦以降、国のクア施策を推進するなかで、タラソセラピーに適した環境にある地域に対してはEUによる州を通じた助成措置やドイツ連邦政府による手厚い補助が行われてきたことである。ドイツでは、国家が主導となり、国民の健康保養活動を促すため保険の適用を認めるとともに、保養地に適した地域を指定しその地域発展に尽くしてきた。

第二に、国立公園における規制をはじめ、海岸や水辺、大気保全のために厳しい制度によりできるだけ自然のままの環境を保持し、また市街地においても快適な滞在ができるよう緻密な都市計画のもとに各種施設の整備が実施されていることである。

ランゲオーク島のような健康保養地を支える法律は、ドイツ連邦保養地法、民法、環境法、建築法、治療手段法、保養自治体の地方自治法、会計法、交通法、空間規制法及び都市建設法の保養地に関する保護規定など様々ある。また、行政や観光局だけでなく、住民1人1人の環境に対する意識が極めて高い。

以上のように十分な公的補助を受けながら、それらを元に計画的・効果的な観光インフラの整備が行われた結果、公共機関及び民間企業からの投資も順調に増加した。このような経緯には、都市・交通計画、マーケティングなど観光の柱となる領域において、優れたビジョンをもつ専門家及び計画を実現していく実力をもった指導者の存在が大きくはたっている。

(3) 今後の展望

現在、高齢化社会を迎えている先進諸国においては、今後ウェルネス関連の産業が伸びてくることは必須であり、ドイツも例外ではない。ドイツでは、2004年のウェルネス部門の総支出は428億ユーロ(約5兆9千億円)と着実に増加し続けている(図6参照)。これは、国の健康福祉政策の転換により、健康保養活動をはじめ保険の適用が減らされる傾向にあり、受益者負担の割合が徐々に増えてきていることと深く関わっている。

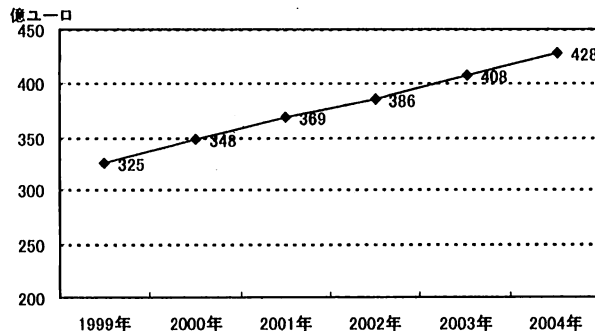


図6 デュッヒにおけるウェルネス関連部門の総支出の推移 (出典：DRI-WEFA,2002年)

ドイツ就業人口数の統計によれば、就業総人口 70 万人の約 40%にあたる人々がウェルネス関連の職業に従事している。今後もウェルネス関連の商品やサービスに対する人々の関心はますます高まり、ウェルネス・マーケットの黄金時代が到来することは間違いない。ただし、関心の高まりとともに、高品質希求のニーズに応えうる各種商品やサービスの提供が必要になってくるであろう。

また、国民の休暇の取り方が多様化し、以前は2～3週間が平均的であった滞在期間も 1990 年代に入るところから2週間未満の滞在の人も増えつつあり、全体的に日数が短くなる傾向にある。これは、海と山、国内と海外など休暇を過ごす場所やスタイルが変化してきたためである。ランゲオーク島へのビジターの滞在日数も、現在平均 8.5 泊と以前より確実に短くなってきている。

これらの動向に対して、ランゲオーク島においても方針を変えつつある。以前は、治療・療養を主としていたため、施設やサービスも医療的なものに近かったが、近年ではファミリーや若い年代のニーズに応じてレジャーやエステなどの要素を取り入れ、施設の改修や新しいタラソテラピー・プログラムの提供などが行われるようになってきた。

また、長期滞在を促す措置として、1999年に導入された「ランゲオーク・カード」がある。このシステムでは、これまで別々に発行されていた乗車券、クア・カード、各種施設の入場券などを一括し、使用料の総計に応じて無料サービスを受けられる。また、28日以上滞在する人や1年に何度も島を訪れる人に対しては、クア・タックスなどを割引するなど、様々なサービス商品の提供を試みている。

おわりに

ランゲオーク島のように、健康保養地として国民が長期滞在する休暇地として支持されている地域は、我が国ではまだ一般的ではない。我が国の地域振興施策を考えるにあたって、このようなヘルス・ツーリズムと称される分野は新しいトレンドを取り入れつつ発展していく可能性を有している。そのためには、長期滞在が前提となる国民休暇制度、健康保養地の形成に関連する法整備、日本人の自由時間活動に対する価値観などの諸問題について議論し、意識改革を進めていく必要がある。

我が国においても、健康づくりが自立・自助を原則とする以上、免疫力を高める自然療法に適した環境である沿岸域や離島地域には、タラソテラピー活動環境の整備が推進されなければならないであろう。これらの地域において、タラソテラピーを中心とした地域振興をどのように進めていくべきかについて、今後さらに具体的なハード・ソフト・ヒューマンウェアについて研究を深めていく予定である。